



中 嶋 秀 一
(自民公明クラブ)

日本酒の乾杯条例の制定を

条例制定は考えていない

問 日本酒の乾杯条例を制定する考えはないか。

答 条例の制定は考えていませんが、関係団体や事業者から意見を伺いながら、日本酒を含めたとわだ産品の消費拡大につながる取組を推進していきたいと考えています。

問 マイナ免許証を利用するには、マイナンバーカードのICチップに運転免許情報を記録する必要があり、十和田警察署では更新手続きができないようだが、その理由を市は把握しているか。

答 十和田警察署には、ICチップに免許情報を記録するシステムが導入されておらず、今後も当面の間導入の予定がないことから、更新手続きができないと伺っています。

問 教職員に対してフレックスタイム制度を導入する考えは。

答 県では、令和7年1月から働き方改革の一環で、勤務時間を柔軟に選択できるフレックスタイム制を導入し、育児または介護を行う職員を対象に実施していることから、当市の教職員に対しても導入する手続きに着手します。

問 十和田湖畔宇樽部棧橋の放置遊覧船について、令和7年2月26日に「船体が傾いている」との通報が市に寄せられたため、市は県へ連絡したようだが、その後の県の対応は。

答 県からは、直ちに現地に向かい、第3十和田丸が横転し、浸水、転覆していること、船舶からの油漏れがないこと、遊覧船は既に着底しており、漂流の可能性はないことを確認した上で、当該遊覧船にオイルフェンスを設置し、ほかの3隻については除雪を行い船体の安定を図ったとの報告を受けています。



笹 淵 峰 尚
(黎明親和会)

インバウンドの増加を見据えた 事業者支援の取組は

観光コンテンツの創出・ 磨き上げに向け支援中

問 インバウンドの増加を見据えた事業者支援の取組状況は。

答 インバウンドによる経済効果を高めるため、食や特産品、アクティビティの充実など、新たな観光コンテンツの創出やさらなる磨き上げが必要と考えており、市内の宿泊・飲食事業者等を対象に受入環境整備の支援を行っています。また十和田奥入瀬観光機構では、事業者のインバウンド向け観光コンテンツの開発に対して助言、指導を行っており、これにより新たな観光メニューの開発が行われたほか、観光機構への委託事業である「氷瀑ツアー」も年々外国人の利用が増え、宿泊客の増加に寄与しています。

問 宿泊税を導入した場合の歳入の試算額は。

答 仮に令和6年の宿泊者数に、市街地は100円、奥入瀬溪流温泉・十和田湖畔は200円をそれぞれ乗じて試算した結果、およそ5,200万円から6,600万円の歳入の増加が見込まれます。

問 地下水の水質検査結果をホームページで公表しているが、専門的な内容が多く難しい。市民が理解しやすいように工夫をする考えは。

答 工夫を凝らして分かりやすくなるよう今後改善します。

問 観光・学習資源としての名水の活用と保全や地域との連携の取組は。

答 名水保全の観点から観光資源としての活用は考えていませんが、学習資源としては、西小学校が沼袋名水公園において、北里大学や地域住民と連携した環境学習を実施しています。今後は、水質や湧水量の変化に注視しながら保全に努め、地域との連携の在り方についても検討していきます。